



令和5(6)・7・8年度 福岡県立農業高校スクールアクションプラン「糸島農業高等学校 版」

第4次アクションプラン 全国の農業高校の新戦略 グローバル・アグリハイスクール宣言Part II			自校のスクールアクションプラン						
農業高校の ミッション (目指す学校像)	行動計画 (目指す学校像の具現化に向 けて)	キーワード (該当ワードを○で囲 む)	学科名	本年度重点取組	具体的方策(5W1H明記、数値目標奨励(年度末ABCDE評価の根拠))	SDGs 目標 NO.	評価 (ABC DE)	次年度の主な課題	
農業高校 グローバル アグリハイスク ール宣言  ○○○○○ 地地地地グ 域域域域口 防交環社 災流境会力 をのを・ル 推拠守産教 進点り業育 すと創にで るな造寄人 学るす与材 校学るすを 校学るすを 校学るすを 校学るすを 校学るすを	1	生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育	全学科	全職員の研究テーマを明確にし、生徒のプロジェクト学習に繋げると共に研究成果を評価し合う場を設定する	年間を通して農業・家庭科の全職員が研究テーマを定め生徒学習の中でプロジェクト学習の向上と地域貢献を目的にPDCAサイクルに則った研究を行っていく	4.15			
			園芸技術科・動植物活用科	九州大学と連携し大学の技術や教養を生かした授業を構築する	年間を通して、九州大学と連携し実習におけるセンシングシステムを取り入れた生徒学習に取り組み、科学的なデータと生産管理を結びつけた学習活動を行う	4.15			
	2	世界と日本をつなぐグローバル教育	グローバル教育、国際交流	全学科	生徒主体で留学生を対象とした体験教室を実施し、異文化交流とグローバル教育に繋げる	年一回、生徒主体で行う学科の特徴を生かした講座を九州大学留学生を対象に実施し異文化交流やグローバル教育を行う	4.10		
	3	地域農業の生産を支える教育	生物生産、特産物GAP、経営	動植物活用科	食育や糸島原産である特産物の普及活動に取り組む	年間を通して、地域のイベントや小・中学生を対象に糸島原産芥屋かぶ・ハルカの普及活動や食育活動を行う	4.9.11.12.15		
				園芸技術科・動植物活用科	九州大学と連携し、根こぶ病被害の抑制に取り組む	年間を通して、学科をまたいだ協同チームと九州大学との連携により根こぶ病の撲滅に向けた研究・啓発活動を行う	4.9.11.12.15		
				生活科学科	糸島産の農産物を活用した加工品を普及させる	年間を通して糸島の生産物の特徴・特性を生かした加工品やレシピの開発を行い、生産物の価値付けや消費拡大に繋げる	4.9.11.12.15		
	4	地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育	地域貢献、6次産業化、食農教育、経営、HACCP	食品科学科	ジビエを活用した商品開発と啓発活動によりジビエ肉の消費拡大を目指す	年間を通して食品加工会社と連携し、ジビエ肉の有効活用を目的とした加工・商品開発を行う	4.9.12.15		
				食品科学科	鯛を活用した商品開発から地域貢献に繋げる	年間を通して、漁獲量トップである糸島の鯛を使った加工品を商品化し、消費拡大に向けた活動を行う	4.9.12.14		
	5	地域環境を守り、創造する教育	環境創造、国土保全、循環型農業、循環型社会	園芸技術科	花を活用した地域美化活動を行い住みやすい安心な町を構築する	年間を通して、市・地域と連携して地域道路沿いや駅構内に花プランターを設置し、地域美化活動によるゴミや落書きの減少を目指す	3.11.12.15		
				園芸技術科・動植物活用科	環境に配慮した農業生産を行う	年間を通して、地域農家・企業と連携した堆肥づくりを行い、堆肥の利用による循環型農業を実施する	3.12.15		
				動植物活用科	ワンヘルス理念の定着とワンヘルスに基づいた授業構成を確立する	年間を通して、農業の授業で人・動物・環境の健全性をテーマとした生徒の協議・演習を行いワンヘルスの実現に向けて取り組む	3.11		
	6	地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育	地域資源活用、特産物、地域交流、食農教育	動植物活用科	放置竹林の活用方法を考案し検証していく	年間を通して糸島市の放置竹林の活用について研究活動を行い土壌改良剤、発根促進、竹灯籠など利用と価値付けについて報告する	7.9.11.12.15		
				動植物活用科	苔を有効利用した新商品を研究・開発し地域資源活用に繋げる	年間を通して地域の苔の有効活用について研究・調査を行い商品開発を行う	9.11.12.15		
				園芸技術科	伝統工芸の伝承と稲作副産物(稲わら)の活用を行う	生産したイネを活用し稲わら細工による資源の利用と伝統工芸の継承活動を地域に向けて発表する	11.12		
	7	Society5.0の時代に合った教育	スマート農業、ICTを用いた学習	園芸技術科・動植物活用科	センシングシステムを活用した農業授業を構築する	年間を通して野菜栽培においてセンシングシステムを活用し、生産物の品質向上やリアルタイムのデータを基にした栽培について取り組む	4.12.15		
	8	地域防災を推進する教育	地域防災、多面的機能	動植物活用科	糸島災害ハザードマップを活用した学習活動に取り組む	年間を通して、糸島災害ハザードマップを活用した授業を行い、災害を想定した自己防衛の構想と資源活用による防災・減災の方法を確立する	11.13		
生活科学科				災害時や緊急時の応急手当の技術を習得する	年に一回、糸島消防署から講師を招き生徒に向けた救急救命手当の実施と資格取得に向けた学習会を開催する	11			

※本プランは全国農業高等学校長協会「第4次アクションプラン」の規定により、各学校ホームページにて公表、年度末に福岡県教育委員会に報告します。また、福岡県農業教育研究大会誌にも毎年掲載(情報共有)します。

★作成・提出の流れ

①各学科は「行動計画1～8」のうち必ず1つ以上「本年度重点取組」「具体的方策」を記載する。②毎年度始めに「本年度重点取組」「具体的方策」を各学科全職員、次に農務部全職員で協議して作成し、4月30日までに校長会第1研究委員会事務担当者に提出及び各校のHPに掲載する。③毎年度末に「評価」「次年度の主な課題」を各学科全職員、次に農務部全職員で協議して作成し、2月10日までに校長会第1研究委員会事務担当者に提出及び各校のHPに掲載する。④令和8年10月から本取組についての検証を行い総括する。

★「評価ABCDE」の基準：A 90～100%の成果を得られた B 70～89%の成果を得られた C 40～69%の成果を得られた D 10～39%の成果を得られた E 0～9%の成果を得られた